

# 『後漢書東夷伝』の高句麗五部族名 東西南北に対応

orig: 2004/07/06  
rev1: 2004/07/21 追記

板橋論文P160には『後漢書東夷伝』に出てくる高句麗五部族名が東西南北と内に対応しているという白鳥・村山の説が紹介されている。即ち:

番号	発音記号略記	原典	意味	備考
(1) (68)	jiuen na	順奴	東(左)	
(2) (69)	sien/kiuen na	消奴	西(右)	消は涓の誤りと考えられる(板橋)
(3) (70)	kuan na	灌奴	南(前)	南は赤で火
(4) (71)	juel na	絶奴	北(後)	北は黒で水
(5)	kueilu	桂婁	内(黄)	

なるほど他で調べたように(末尾付録参照)「奴」は「ナ」に近い音でその意味は「壤」(国、土地)でありそうである(オホナモチの「ナ」に通ずる)。ここでも東西南北の土地をそれぞれの部が領有割拠していたものであろうか、と窺い知れる。

[2004/97/21:追記]高句麗本紀西暦22年7月に「椽那部」(上記五部の順奴部か絶奴部か)、32年に「沸流那部」(流と婁から桂婁部では?)「南部」(既に上記五部の名称が出てくる)、72年に「貫那部」(灌奴部か)74年に「桓那部」(桂婁部か{これは金思燁氏による})、132年と147年に「桓那部」「沸流那部」、165年に「椽那部」が見える。更に251年に「貫那」、254に「沸流那部」、256に「椽那部」が見える。(魏志が伝える時代であり、上の五部との整合が取れる筈だ。「那」が「奴」と同音であり、意味上「壤」に相当するのであろう。それぞれと上の五部との対応は音の類似による想像である。

それにつけても思い起こすのは『三国志・魏志』の倭人条に出てくる諸国名が「奴」で終わるものが多く見られることである。

高句麗の名称と対応するものがないか、無理矢理下表に整理してみた。

奴國	
彌奴國	
姐奴國	順奴
蘇奴國	絶奴(消奴?)
華奴蘇奴國	灌奴
鬼奴國	涓奴
烏奴國	
奴國	
狗奴國	灌奴、涓奴

「狗奴」を更に考えてみる。

29	童城縣	*童子忽(一云嶮山)縣	[29童子忽縣(一云仇斯波衣)]	童子=仇斯、童=仇、子=斯? ● 板橋#7は仇だけを童~童子
----	-----	-------------	------------------	-----------------------------------

としている。

板橋#7により、「仇」(ク)が「童～童子」の意味であれば「狗」も「子」を表してはいま  
いか。即ち「狗奴」とは「子国」である。して、親国は、というとやはり邪馬台国であろ  
うか。そうすると、

- 「男子爲王其官有狗古智卑狗不屬女王」
- 「卑彌呼與狗奴國男王卑彌弓呼素不和」

の意味合いも親子での覇権争い、という色彩で観察することが出来そうだが、どう  
だろう。情報が足りなくてどうとも言えないのは相変わらずだ。

呼邑國、鬼國、躬臣國、支惟國あたりと 高句麗の「桂婁」の音の近似もメモして  
おきたいポイントだ。

## [高句麗語の研究の勉強TOPへ](#) [HPへ戻る](#)

付録：「奴」の用例

卷35(高句麗地名リスト)より				
9	黒壤郡(一云黄壤郡)	* 今勿奴郡	[9今勿内郡(一云萬弩)]	黒=今勿(板橋#14): 壤=奴(板橋#34)
13	陰竹縣	* 奴音竹縣		陰=奴音: ∴ 11陰=仍=奴音●
22	穀壤縣	* 仍伐奴縣		5で壤=奴だから穀=仍伐。13仍=奴音●
32	荒壤縣	* 骨衣奴縣		壤=奴(ナ)だから荒=骨衣(板橋#19)
卷34(新羅地名リスト)より				
S22	軍威縣	本奴同覓縣(一云如豆覓)	★	今因之
S66	慈仁縣	本奴斯火縣	★	今因之